

# 平成29年度 川崎市地域自立支援協議会について

平成30年3月15日(木)  
第4回川崎市地域自立支援協議会全体会議

## 平成29年度の目標・設置の専門委員会及びワーキング

【長期目標】(平成28年度～平成29年度)

『ともに暮らすまちづくり ～みんなにやさしい川崎市～』

・地域に根ざした関係機関との関係づくりから、いつまでも安心して健やかに暮らせるまちを考えていく

【短期目標】

『ネットワークを活用した地域課題への実践、取り組み』

・地域自立支援協議会のネットワークを深める

・地域で活動する関係機関へ障害者施策(障害者差別解消法といった日常生活に関連するような法律など)を紹介し、支援者のスキルアップを図る

〔定例会〕

構成員同士のネットワークを深めるために、テーマを決めて意見交換を行う。

〔専門委員会〕

児童委員会・相談支援委員会・地域つながり委員会の3つを設置

〔ワーキング〕

企画運営会議内に、課題整理ワーキング、指定特定ワーキング、地域包括ワーキングの3つを設置

# 定例会の取り組み

- ・2カ月に1回(偶数月)開催。専門委員会等の活動報告の他に構成員同士のネットワークを深めるため、テーマを決めて意見交換会を実施。
- ・『「こんな街だといいな」ってどんな街?』(街のイメージは川崎区を想定)をテーマに、4グループに分かれて意見交換を行い、地域の状況(良いところ、課題等)を共有した。

## 【意見抜粋】

- ・障害の有無を問わない集える場が欲しい。そういった中から自然と助け合いの気持ちが生まれていくのではないかな。
- ・身近に障害を持った人が居ると理解できるが、関わる機会が無いと分からない、知らない。少しでも知っていれば、過剰に反応しないで済む。
- ・視覚障害情報文化センターが入っている建物は児童/障害/高齢等の施設が複合して入っている。そういった施設があると良い。
- ・つながることは大事だと思うが、つながったあと、どうする?何がある?それでどうなるといいのかな。具体的なイメージを持てるようにしたい。

※12月の定例会を含め合計三回実施。今回の内容を踏まえて自立支援協議会として取り組みそうなことを検討し、課題提出表に落とし込む。

※3月にヘルプマークの紹介を行う予定。

# 児童委員会の取り組み ①

## 【教育機関と福祉の連携】

### 〔年度当初の方向性〕

- ・支援学校の先生方に集ってもらい、福祉制度や障害福祉サービス等について説明する機会や情報交換が行える場を設けるための方法を検討する。



私たちがまずは教育機関を理解することから始める必要があるのではないかな…方向性を変更

### 〔検討後の方向性〕

- ・こちらから学校に出向き、教育機関について話を聞くことから始めていく。

○活動内容：学校に聞きたい内容を整理。その内容を踏まえて、区内の通級併設の学校に出向き話を聞く。



以下の意見が挙がり、活動内容の再検討を行う。

- ・学校側は困った時の対応を知りたいと思っている。

困っていることを相談できスムーズに福祉に繋がられるような関係づくり＝“連携”が出来れば

良いと考えており、学校訪問では意見交換で終わってしまう可能性があるのではないかな…方向性を変更

### 〔検討後の方向性〕

- ・毎年夏季に行われている地域公開研修があり、その研修の一コマの時間を頂き、区役所や相談支援センターの役割、障害福祉サービス等の説明を行い、各機関の役割や使える制度を知って貰う。

学校と福祉が連携した事例等も盛り込み、事例を通して教諭が抱えている類似のケースの問題に当てはめ、福祉に相談する時のイメージ作りをしてもらうきっかけにする。

○活動内容：平成30年の夏季地域公開研修に向けて田島支援学校の教諭と内容の確認を行う。

## 児童委員会の取り組み ②

### 【放課後等デイサービス】

#### 〔年度当初の方向性〕

・放課後等デイサービスで、重度の方を受け入れている事業所がどの位あるのかを知るための方法を

検討する。（事業所数は増えているが、重度の方を受け入れている所は少ないとの課題が挙がっていた）



…利用できず困るとの声は減っているが、事業所ごとの特色がわかりにくい等の声から方向性を変更

#### 〔検討後の方向性〕

・事業所ごとの特色等の情報を収集するための方法を検討する。

#### ○活動内容

・区内事業所に対するアンケート実施に向けて、アンケート項目の検討を行う。

（開所日、開所時間、送迎の有無、プログラムの内容、看護師等の専門職配置の有無等）

## 相談支援委員会の取り組み

### 〔今年度の活動〕

昨年度の取り組み（委員会内でつながり方を知る）の振り返り、家族の声、課題管理一覧表を基に・・・

- ・サービスを利用する当事者や家族が福祉制度やサービスの実態を知る機会を増やす。
- ・当事者やその家族がグループホームや地域移行を目的とした入所施設がどんな所なのか、イメージがしやすいような情報提供を検討していく。

#### ○実施内容

・平成29年12月「手をむすぶ親の会」開催の保護者向け研修会の場にてグループホームの説明会を実施。基本的なホームの日常や費用等の説明と、生活がイメージしやすいよう、入居されている方のスケジュールや生活費、ホームの特色などを紹介する資料を配布。

#### ○今後の予定、課題

- ・同じような悩みを抱えている方々に、必要な情報を伝え、知る機会を作る。
- ・支援者側からの一方的な情報提供にならないような枠組みは必要。

# 地域つながり委員会の取り組み ①

〔今年度の方向性〕

◇昨年度に引き続き、

個別ケースに取り組む際、支援者間でのチームケアができる関係づくりが必要ということが多数提出されていた。そのため関係づくりには、区地域自立支援協議会を活用したネットワークづくりを再検討する必要があることを再認識し、下記の目的をもって地区社会福祉協議会との関係づくりと福祉まつりへの参加を行った。

◇平成29年度 地域つながり委員会の目的

- ①とにもくらす街づくり 地域に根差した関係機関との関係づくりからいつまでも安心して健やかに暮らせる街を考えていく
- ②関係機関を知るとともに、協議会のことも知ってもらう  
「知って知られてつながって」
- ③委員会（メンバー）同志のつながりも深める

【地区社協との連携】

- ・区地域自立支援協議会を知ってもらう、伝えるツールとして、新しい区地域自立支援協議会のリーフレットの作成
- ・地区社会福祉協議会との関係づくり  
→H30年2月14日（水）地区社会福祉協議会会長会に参加し、挨拶と区地域自立支援協議会の紹介を行った。

# 地域つながり委員会の取り組み ②

【福祉まつりに参加】平成29年11月18日（土）10:00～15:00 開催

◇自立支援協議会とは何かを知ってもらうために、

地域への情報発信の場の一つとして「福祉まつり」に参加をする

◇展示内容等

- ①作業所で実施しているものを体験していただく  
「点字で名刺を作ってみよう！」
- ②展示他
  - ・川崎区地域自立支援協議会とは
  - ・協議会の活動内容
  - ・「川崎区がどんな街になったらいい？」をテーマに、来場者にリンゴ型付箋に記載してもらう



【結果とまとめ】

- ・シールラリーに参加したこともあり、ブースに立ち寄ってくださって、リンゴ型付箋に記載してもらった方は200名ほど。
- ・内容を分析し、地域の問題点を抽出し、課題を検討中。

## 課題整理ワーキングの取り組み

### 【これまでの取り組み】

- 平成28年度
  - ・企画運営会議メンバー全員で運営。
  - ・平成27年度以前に抽出していた課題を再度分析、課題提出票作成、課題管理一覧表作成。
  - ・平成28年度の意見交換会で作成された課題提出票をもとに課題管理一覧表作成。

### 【今年度の取り組み】

- ・企画運営会議メンバー4名で構成。
- ・平成28年度に作成した課題管理一覧表の「優先度保留」と「協議取り扱い先未定」の部分进行再考し、一覧表を更新。
- ・新様式の課題提出票を用いて課題整理。
- ・定例会で実施する地域課題の抽出方法の検討。（テーマ、グループ分け、頻度）

## 指定特定ワーキングの取り組み

### 【これまでの取り組み】（平成27年度、28年度は、協議会とは別枠で意見交換会を実施。）

- 平成27年度
  - ・事例を用いて、委託事業所から指定特定事業所への移行の流れについて説明。（どのように移行していくのか、委託事業所は移行に際して、どのようなフォローができるのか等）
- 平成28年度
  - ・事例を用いて、相談支援の流れについて説明。（事業所が連絡を受けてから支援に至るまでの流れ等）
  - ・障害福祉サービスと介護保険サービスの違いについて説明。

### 【今年度の取り組み】（平成29年度は、協議会として意見交換会を実施。）

- ・平成30年1月31日（水）意見交流会を実施。参加者30名（うち見学者3名）。  
〔内容〕
  - ・川崎市及び神奈川県計画相談支援の状況等についての説明、平成27年度・28年度で使用した資料を再編集した資料集を配布、説明を行った。
  - ・グループワークとして、事例を通して計画書を作成、情報交換を行った。  
事前に、区内の指定を受けている事業所に聞き取りを実施し、グループワークの内容を決めた。

# 地域包括ワーキングの取り組み

## 【これまでの取り組み】

### ○平成28年度

企画運営会議のメンバーと地域包括支援センターが協働して、連携強化の取り組みを検討する目的で、意見交換会を開催。（参加者は企画運営会議のメンバーと地域包括支援センターの職員）

## 【今年度の取り組み】

昨年度の意見交換会で挙がっていた共同研修会を実施。

構成員には当事者の方やご家族の方、教育機関の方もいることから、今年度は双方で障害の理解を深められるテーマで共同研修を実施していく。

### 〔内容〕

- ・「障害の理解を深めよう ～高次脳機能障害の理解と支援方法について～」をテーマとした研修と意見交換会を実施。
- ・平成30年1月10日（水）午後開催。  
→川崎区内包括支援センター参加者：25名（高齢者支援・みまもりの行政含み）  
川崎区地域自立支援協議会参加者：16名

# 平成29年度 幸区地域自立支援協議会

平成30年3月15日(木)  
第4回川崎市地域自立支援協議会全体会議

第1回資料

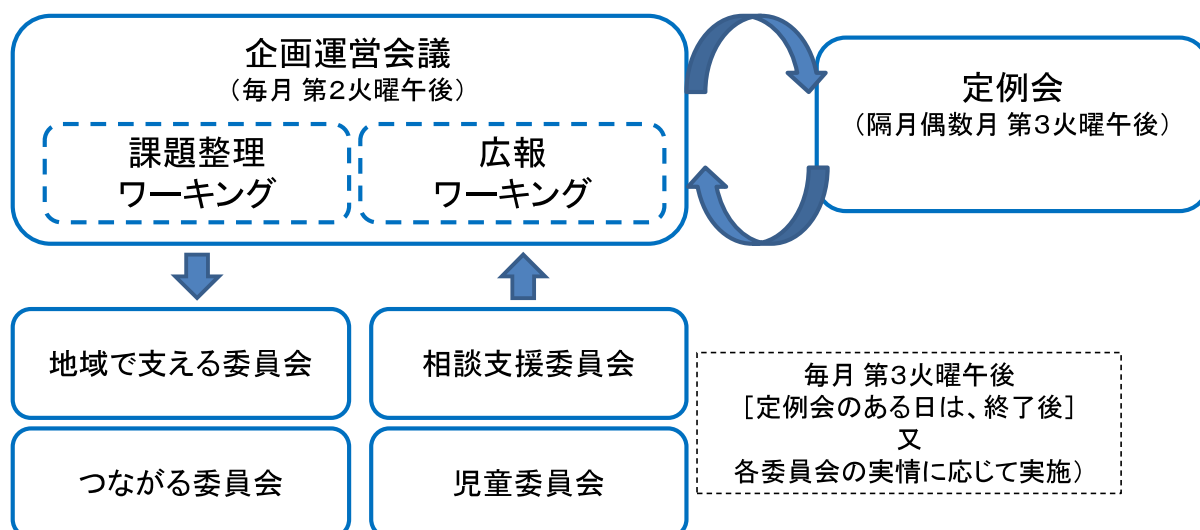
平成29年度 幸区地域自立支援協議会体制①

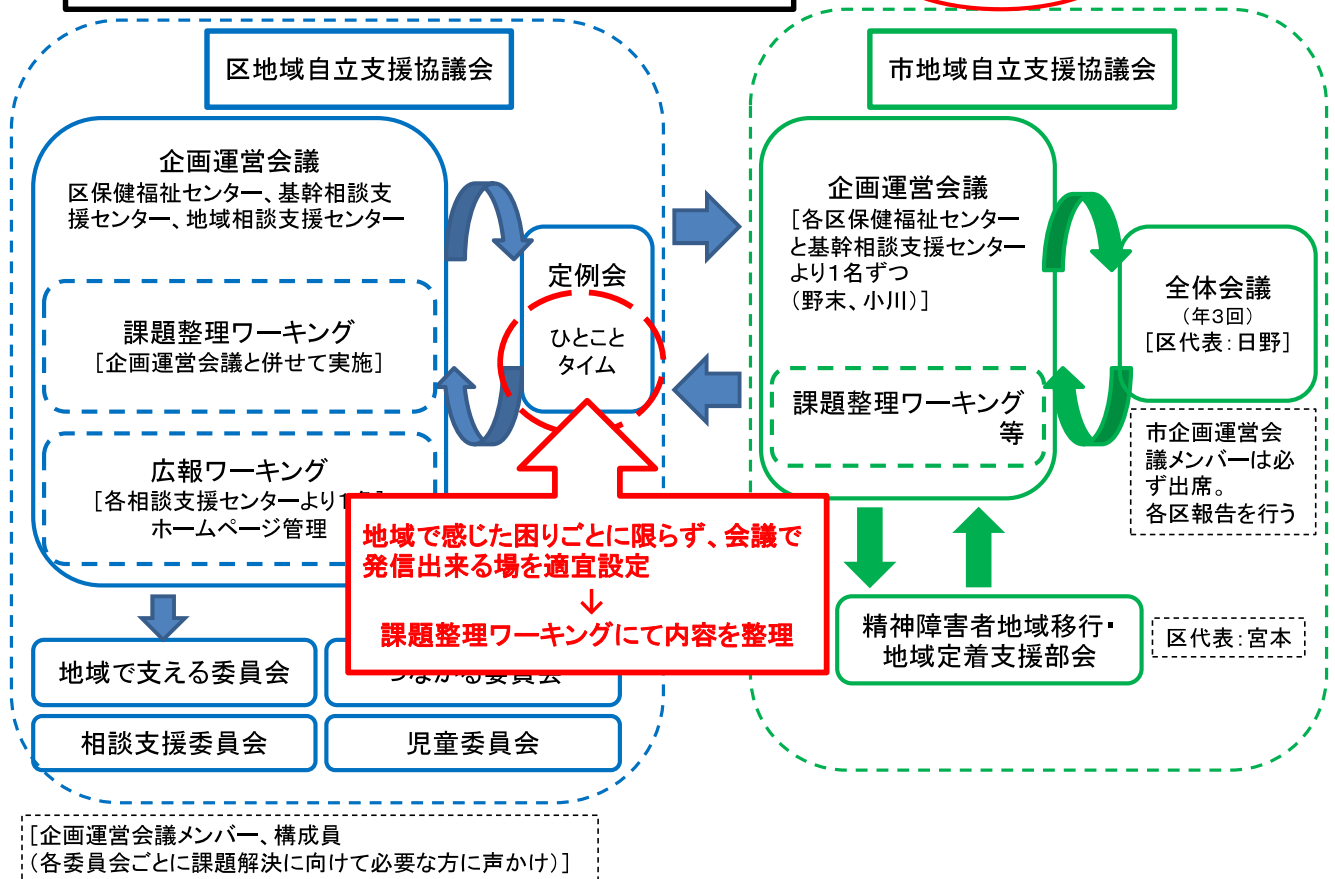
長期目標(期間:平成28年度～29年度)

- 顔の見える関係で地域が連携し、暮らしやすさにつなげる

年度目標(期間:平成29年度)

- 構成員全員が協働しながら、これまでに築いたつながりを深める





## 地域で支える委員会

### 【地域課題】

高齢、障害その他、地域の複雑な課題を抱える事例、埋もれている事例について、関わった支援者が個々で動いてみたけれど、抱え込んでしまう



### 『地域で支え合う仕組み』 《支援者支援の視点》

#### 活動目的

- 高齢・障害他複雑な問題を抱えていたり、地域で埋もれているケースについて、支援者が個々で抱え込まず必要な関係機関とつながっていくための仕組みを考える。

#### 長期目標

- 個々で抱えている支援者の課題解決につながるような仕組みを作る。

#### 短期目標

- 地域を支える支援者同士が連携できる場を作る。





## つながる委員会

### 今年度取り組み

- ①幸区社会福祉協議会による事業説明会(6月)
- ②幸区内ヘルパー事業所現況調査(1月)
- ③幸区内サービス管理責任者交流会(7月)。今年度より生活介護に加え、就労継続も出席。施設紹介、事例検討を実施。

### 成果



- ①身近な地域で役立つ地域情報を学ぶ場として、新規構成員の顔合わせも含め、初期の内容に適していた。
- ②円滑に障害福祉サービスをつなぐためのツールとして必要であり、回収結果は今後の実務に非常に有効な情報となった。
- ③サビ管の地域での横のつながりが全く無いという課題が見え、継続希望の声も聞かれた。

### 活動を通して見えた課題



- ②今回の1回の情報収集ではデータが古くなっていくため、最新の事業所情報を共有するためのサービス提供責任者とのネットワーク構築が必要である
- ③サービス管理責任者のみの自発的な交流会の開催があると望ましいが、年度異動や退職等があると、自主的な開催がまだ困難である。

### 今後に向けて



- ①次年度、新規構成員として依頼。
- ②サ責との交流会や情報交換会の設定を検討。
- ③企画する段階から、就労・生活介護分野のサビ管を交えて検討(サビ管目線のテーマ設定)。



## 相談支援委員会

第1回資料

### 【地域課題】

計画相談を立てる事業所の数が少ない為、計画相談を受けられない人がいる



### 『計画相談についての課題検討の場』

#### 活動目的

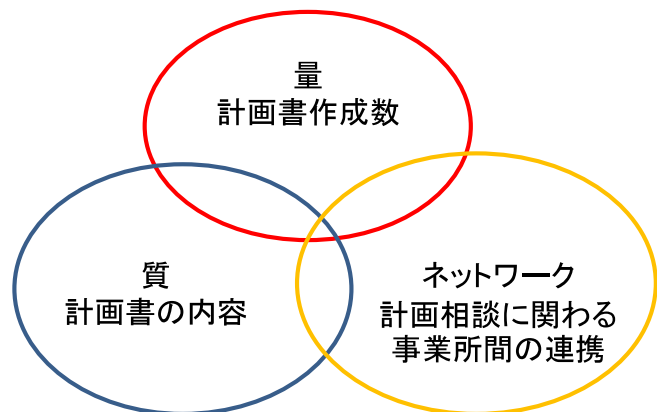
- 計画相談がスムーズに行われる仕組みを作る

#### 長期目標

- 3つのカテゴリーの充実から、幸区の計画相談支援の充実を図る

#### 短期目標

- 課題への取り組みを通して、計画作成事業所等との関わりを深め、計画相談支援の向上を図る



## 相談支援委員会

### 今年度取り組み

#### 「指定特定相談支援事業所との連絡会」4回開催(予定)

幸区の計画相談支援の質の向上と充実を図ることを目的に

- ・計画相談支援作成の手順
- ・サービス基準超過ケースの取り扱い
- ・幸区内福祉事業所の確認



平成29年度指定特定相談支援事業所連絡会  
の開催の目的：幸区の計画相談支援の質の向上と充実を図ります。  
①方法：事業所同士が交流できる機会を持ち、各テーマを基に、現状の課題や  
課題を報告します。  
②参加者：指定特定相談支援事業所、委託相談支援センター、障害者支援課

回次	日時	場所	テーマ
第1回	7月19日 (水) 10:00～ 12:00	幸区役所第3会議室	計画相談支援の作成の手順 について
第2回	9月20日 (水) 10:00～ 12:00	幸区役所第4会議室	①サービス基準超過ケース の取り扱いについて ②幸区内福祉事業所の確認
第3回	11月15日 (水) 10:00～ 12:00	幸区役所第5会議室 (仮)	事業所間の連絡の課題に ついて
第4回	3月14日 (水) 10:00～ 12:00	幸区役所第3会議室 (仮)	自費相談対象者の計画相談 について



### 成果



幸区内の指定特定相談支援事業所と顔の見える関係性を築けた。  
委託相談支援センターから、指定特定事業所にケース1件移管のきっかけとなった。  
お互いの業務内容の理解から、連携の仕方について模索できた。  
指定特定支援事業所の実状を把握、理解につながった。

### 活動を通して見えた課題



指定特定相談支援事業所のサポート体制が希薄。地域における研修や勉強会がない。  
指定特定相談支援事業所の運営の厳しさ(計画相談のみでは運営できない)

### 今後に向けて



ネットワーク構築と質の向上について取り組みの成果が見られたが、量を増やす課題については問題が山積みである(相談支援部会との連携も必要か)。指定特定事業所に相談支援委員会に参画して頂き、計画相談の課題や解決策について検討する。

## 児童委員会①

### [地域課題]

学齢期に支援が必要と思われるエピソードはあるが、社会に出てからつまづく等、生活の立て直しが困難。



### 『学齢期における教育と福祉の連携』

#### 活動目的

- ・学齢期における教育と福祉の関わりを広げる

#### 長期目標

- ・幸区内特別支援教育コーディネーターとの連携

#### 短期目標

- ・幸区内中学校特別支援教育コーディネーターとの関係づくり

### 今年度取り組み

中学校訪問については教育委員会の了承が得られたが、年度末での実施が困難なため、今年度は実現できず。

### 今後に向けて



来年度8月の訪問に向けて、特別支援教育コーディネーター等との意見交換会に向けた情報収集や資料作成等を行っていく。

**[地域課題]**

父親が子育てに関わる機会が少なく、父子関係に影響したり、父親の力が発揮できない



**『父親相互の横の連携を図り、父親の力を高める』**

(父親と障害のある子供たちのふれあい)

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>父親相互の横の連携を図り、父親の力を高める</li> </ul>
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>父親同士が語り合える場を設定し、つながりを作る</li> </ul>
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>父親同士が語り合える場を設定し、横の連携、つながりを持てるようにする</li> </ul>

児童委員会②

**今年度取り組み**

- 福祉施設(桜の風)見学会(7月)  
参加者同士の意見交換の場を設け、子どもの将来的な社会資源などの情報共有
- お父さんと障がいのある子どもたちのふれあいサッカーイベント(12月)  
父親同士の懇談会では今後の父子イベントの企画内容や参加協力について情報交換

**成果** 


- 施設見学会やサッカーイベントにおいて参加者が懇談できる場を設定し、父親同士が情報交換・共有することができた。
- サッカーイベントでは父親にも当日の役割を担っていただき(閉会挨拶、懇談会の進行)、今後の活動において父親との協力体制を築いていくための一歩となった。



**活動を通して見えた課題** 

- 父親同士の連携を進めていくためには、顔を合わせる頻度を高めていく必要(父親からの意見)があり、父親が参加しやすい休日にとりだけ協議会からマンパワーを割けるか。
- 参加者がある程度固定されてきており、新たな参加者を募るための広報のやり方やイベント企画運営のあり方。



**今後に向けて** 

父親はもちろん、協議会以外の既存の団体や事業所、会議等との連携や協力体制について模索。今後のイベント周知や運営方法のあり方についても検討。



平成29年度

# 中原区地域自立支援協議会



中原区地域自立支援協議会  
イメージキャラクター「なかはらっくん」

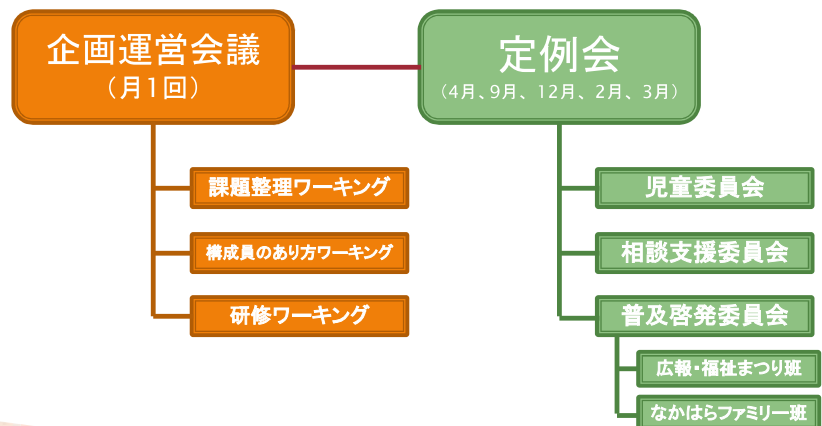
平成30年3月15日(木)  
第4回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

## 長期目標(平成28～29年度)

- ▶ 中原区地域自立支援協議会の体制作り

## 平成29年度の短期目標

- ▶ 中原区の資源・課題を知り、地域と広く連携を図っていく



# 児童委員会



つながる、広がる、支えあう

- ・支援の必要な子どもたちのための地域の資源を集め課題を見つける
- ・子ども未来フェスタに参加し、普及啓発を行う
- ・中原区の児童のための情報をまとめた冊子を作成する

- ・なかはら子ども未来フェスタに参加。
- ・中原区の児童のための情報をまとめた冊子を作成。

- ・地域と深くかかわっていくような活動を進めていく。
- ・情報冊子の更新時期や内容の検討。



# 相談支援委員会



中原区内の相談支援体制の標準化をめざす

みまもり支援センターと継続的につながるためのアプローチについて検討する

- ・事例検討から地域課題を抽出
- ・みまもり支援センターとの意見交換
- ・指定特定相談支援事業所との交流会開催

- ・区内の相談支援体制の強化
- ・分野や年代を超えた顔の見える関係、生活面からみる支援体制づくり



# 普及啓発委員会



中原区内の地域の方と支援機関の顔の見える関係を作る

広報活動を通じて地域の方に協議会を知ってもらう

- ・広報誌「なかは楽通信」:今年度は年2回(第3号、第4号)発行。
- ・福祉健康まつり:区自立支援協議会の活動をPR。スタンプラリーに参加。来訪者は100名を超えた。
- ・「なかはらファミリー」:年間を通じて活動をバックアップ。福祉健康まつりのステージで歌を発表するなど、活動の幅や内容を広げることができた。

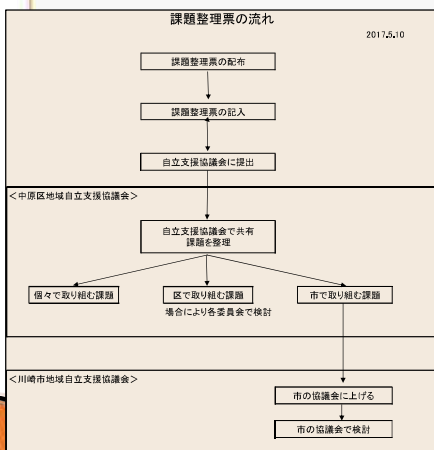
- ・どの活動も次年度につなげていくべきものであると考えるが、1つの委員会の活動として集約するべきかどうかは、検討が必要。
- ・なかはらファミリーのバックアップ体制についても課題。



## 活動報告 1 ～グループワーク～



- ・課題整理票をもとに定例会でグループワーク
- ・課題整理の流れが理解しやすいようにフローチャートを作成
- ・課題整理票で挙げた課題が、指定特定相談支援事業所との交流会の開催にも繋がった。



## 活動報告 2 ～交流会～

相談支援

### ・指定特定相談支援事業所との交流会を開催

- ・平成30年2月14日(水) 14:00～16:00  
中原区役所506会議室にて開催
- ・目標:「顔の見える関係づくり」
- ・指定特定相談支援事業所、区役所、委託相談支援センターから23名の参加があった。
- ・指定特定相談支援事業所の現状を把握できた。
- ・事業や分野を超えた意見交換ができた。



## 活動報告 3 ～全体研修～

研修

### ・知っていますか？いざとなったときにあなたの地域のこと ～防災のこと、助けを必要とする人のこと～

- ・平成29年12月15日(金) 14:00～16:00  
中原区役所501会議室にて開催
- ・町会関係者を含め、約60名の参加があった。



プログラム	研修内容
14:00～ 『被災地視察に行こう』 講師 錦見 亜由 氏 いこまこどもセンター 相談員 (井原市 養育センター 保健師)	阪神・淡路大震災が全国各地の地域でも起っています。これまでの記録の蓄積や自然災害では考えられない規模で発生しています。 平成28年4月14日及び16日には関東圏で最大規模7の地震が発生しました。大きな被害を受けた地域は被災し、全国から救援活動が行われました。
講師 友重 隆介 氏 いこまこどもセンター 相談員 (井原市 養育センター 副会長)	研修では、前半は震災生動員、存続員として派遣された現地へ視察をした地元民から被災地や避難所の「状況」について、中津川市南地区の井原市4区防災の担当者からは震災時に組織とされている防災活動について、全国きょうだいの会の前井直井からは地域とのつながりについて、の話しいただきます。
『地域とのつながりについて』 講師 田部井 信雄 氏 広島県警とともに歩む防災協会の会 副会長	今後、自然の身近な地域で起こる災害に対して何が出来るのでしょうか。
『自分の地域で出来ることは』 ・皆さんの地域の状況を報告 ・質疑応答	皆さんの地域の状況を報告しながら、一語に学び、考えましょう。
16:00 閉会	



# 活動報告 4 ～普及啓発・広報～

福祉健康まつり

- ・ なかはらファミリーがステージで歌を発表！
- ・ 区協議会の活動紹介パネル展示、制度や事業所のリーフレット配布。
- ・ スタンプラリーに参加
- ・ アンケートの実施 など



なかはらファミリーの皆さん

子ども未来フェスタ

- ・ 知育玩具の紹介
- ・ 区協議会の活動紹介やリーフレットの配布 など

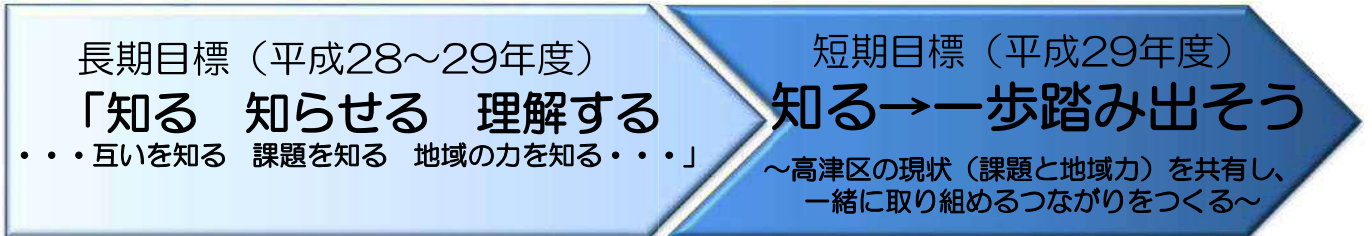


なかはら子ども未来フェスタ 公式ポスター

# 高津区地域自立支援協議会



平成30年3月15日(木)  
平成29年度第4回川崎市地域自立支援協議会全体会議



# 交流企画委員会

## \*課題\*

- ・障害を持つ人とそうでない人との相互理解がすすんでいない。
- ・地域のまちづくりに当事者の声を届けたい。



## \*長期目標\*

福祉・教育・地域の連携を図り、当事者の方たちの思いを地域に発信する。

## 平成29年度\*短期目標\*

防災への取り組みを通じて、地域で生活する方と当事者の方との相互理解を深める。



## 活動報告

- ★1月24日(水) 高津区まちづくり協議会主催 福祉のまちづくり 避難所運営ゲーム に参加。参加者47名(内まち協12)が参加。井田障害者センターから障害ある方の熊本地震災害派遣のエピソード報告などを加えることができた。
- ★ 2月22日 地域包括支援センターとの連絡会 地域包括(区内7包括支援センター)と相談支援センターとのグループワーク形式で実施。井田障害者センターから模擬事例を出してもらいグループ討議。関係づくり・井田障害者センターと地域見守り支援センターの機能紹介

## 振り返りと次年度に向けて

- ☆避難所運営ゲーム(HUG)は防災活動に特化したものだが、地域や支援機関とのつながり顔の見える関係作りを行なうツールとして有効だと感じた。
- ☆定例化している交流会もあるが、分野に捉われない人と人とが交流する活動を継続する目的とその意味を見失わないよう、取り組む必要がある

# 児童委員会

## \*課題\*

放課後等デイサービス事業所の増加に伴い、利用者が複数の事業所を利用することで、連携した療育的アプローチが行いにくい。放課後等デイサービス事業所が増え、実態が把握できない。

## \*長期目標\*

より良い療育の為にネットワークづくりを目指す

## 平成29年度\*短期目標\*

交流会でのネットワークを活用しながら、児童期の課題を把握し、解決のための手立てについて協議する。



## 活動報告

- ☆交流会開催 (事前に話をしたいテーマを確認し、その上でテーマ設定・グループトークを実施したため、放課後等デイサービス事業所が関心あるテーマでグループトーク・情報交換ができた。)
- ☆放課後等デイサービス事業所間見学 (他事業所を見学する機会がなかなかないため、見学会を企画・実施することで、放課後等デイサービス事業所も視野を広げることができていた。)

## 振り返りと次年度に向けて

- ☆児童委員が主体で交流会を実施しているが、事業所の方にも運営から関わっていただくことで、より放課後等デイサービス事業所の課題把握や解決に向けた手立てを協議する場となるようにしていく。

# みんなの居場所づくり委員会

＊課題＊

当事者がやりたいことをできない、地域に出る機会が少ない、自分の力を生かせる場がない。



＊長期目標＊

活動の中で、少しずつ当事者が主体的にできることを増やしていく



平成29年度＊短期目標＊

- ①活動の中で少しずつ当事者が主体的にできることを増やしていく。
- ②すまいる（当事者定例会）を定着させ、当事者からの発信を促す。



## 活動報告

☆地域イベントの参加  
どんなもんじゃ祭り  
高津区民祭  
ええんじやないか祭り  
☆すまいる定期開催（平成29年度 5回開催）  
パークゴルフ、デニーズ、北海道（屋食）



## 振り返りと次年度に向けて

### 【すまいる】

当事者主体の会への移行するため参加者への意識づけの方法について検討が必要。  
当事者の参加が減少傾向にある。  
募集方法、参加者の固定化。  
意見発信のための促し方法の工夫。

### 【地域へ発信】

当事者の顔を知ってもらう方法の検討が必要。  
地域と継続的につながっていく必要性は意識しながらも  
参加することを目的とするのではなく、  
当事者一人ひとりがやりたいことは何かを明らかにし、実現できることを目指す。

# 相談支援委員会

＊課題＊

高津区の入院患者全員が地域に移行することが進んでいない。

＊長期目標＊

地域移行・地域定着の促進をはかる

平成29年度＊短期目標＊

高津区の地域移行・地域定着の実情を理解する。



## 活動報告

☆夕食会の共同実施 9月25日

入院中の参加者に地域とのつながりを実感していただけるようなきっかけを作る

☆勉強会 10月24日・11月28日

ピア活動をしている方をお招きして、入院されている方、退院した方の実情を学ぶ。



## 振り返りと次年度に向けて

○夕食会・勉強会共に参加者からは概ね良好な意見を頂いたが、イベントで終わらせずに協議会の専門委員会として今後何らかの形づけとなる仕掛けが必要である。

○夕食会・勉強会を個別支援や退院支援に繋がるような下地作りの機会と捉え、今後も継続的に実施する意義を共有。

○相談支援委員会で取り上げる課題は精神病院からの地域移行だけではないため、地域も含めた個別支援への繋がり方を検討する必要がある。

○地域移行・地域定着支援は福祉関係者だけでは成立しない。生活支援にはその地域で生活する方の理解が必要。また、その橋渡し役としての役割は相談支援従事者等に求められている。相談支援員委員会として高津区の現状を今一度見直す機会を持ち、課題を把握し検討を行う。

# 課題整理ワーキング

☆5月 課題提出票から全体化したい議事を取り上げ、グループワークを実施し、構成員で地域課題であることを認識。

⇒ 課題整理ワーキングで意見を集約、次年度委員会で取り上げられるよう、方向性を示した。

☆平成29年度までに挙げた課題を新書式に書き換え、整理。

⇒ 高津区内の地域課題を共有し、各委員会活動が課題に基づいた取り組みであることを構成員一人ひとりが意識できるような働きかけを行なう。

## 【課題整理ワーキングの活動】

- 課題を取り上げ、整理し、地域の共通課題へと結びつける。
- 定例会で構成員にも地域課題について意識共有する機会を設けるため、グループ討議で取り上げる議題を検討。